

# 小学校知的障害特別支援学級担任の自立活動の指導 に対する困難感を低減するための実践的アプローチ

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 特別支援教育系

氏名 (鉄井 史人)

本研究は、小学校の知的障害特別支援学級担任の自立活動の指導に対する困難さやその工夫を明らかにするために質問紙調査を行った。先行研究(今井・生川, 2013, 2014)を基に「実態把握」「教員間の共通理解」「専門性向上」の3観点に焦点を当てて調査し、その内容を整理、検討した。

その結果、知的障害特別支援学級担任は3観点共通して、時間的ゆとりがなく、教員の自立活動に関する専門性が十分でないという困難さを抱えていることが示された。そのような中でも、教員が最低限可能な範囲で指導や専門性向上の工夫を行っていることが特徴的であった。

知的障害特別支援学級担任の困難感を低減するだけでなく、本研究で示された工夫を生かし、より負担の少ない方法で実践することが必要だと考え、「ミニカンファレンス」、「一行記録」の取り組みを実践した。

時間的負担を減らし、指導の検討や日々の気付きを教員間で共有することで、指導への即時性と指導への客観性が示された。引き続き、よりよい自立活動の指導を目指し、さらなる実践の工夫と検証が求められる。